

コーパス言語学の手法を英語教育に活かす（1）

—「辞書とコーパスで自信をもって楽しく英語を使う」ための方策—

梅 咲 敦 子

1. はじめに

コーパスは、広義には言語分析に利用できるコンピュータ可読形式の実際に話されたり書かれたりした言葉の集積を指し、狭義には一定のコーパスデザインと代表性を有するよう編纂されたものを言う。コーパス言語学は、コーパスを利用した言語研究とその応用およびコーパス編纂と検索に関わる研究を行う学問分野である。では、コーパス言語学の手法とは何か。コーパス言語学は、言語運用を中心に置き、個別言語の使用実態を記述し、その中から言語の本質・規則性を見出す、経験主義・実証主義的研究である。その点で、コンピュータのない時代に手作業で言語資料を分析した記述的伝統文法の新しい形といえる。生成文法の言語能力と言語の普遍性の解明を目指し母語話者の言語直観に基づいて言語理論を証明する合理主義的研究とは対照的アプローチである。そのため、生成文法研究における母語話者の絶対的優位はコーパス言語学にはない¹⁾。むしろ非母語話者のほうが、母語話者の見過ごす言語の不思議に気付き、コーパス分析によって言語の本質に迫る可能性が高いかもしれない。コーパスの検索は語がベースになる。コーパスから検索ソフトを介して得られる語や語の連続の用例はさまざまな言語理論の証拠として利用できる。用例とともに、頻度と統計データ及びそれらに基づく新たな結果表示は、従来とは異なる方法で言語の使用実態を明らかにできる。それらを活かして、実証的に言語の本質に迫ることがコーパス言語学の手法であり、意義と言えよう。

筆者は、コーパスの英語教育への貢献を、コーパス言語学の視点から2つに大別できると考えている。第一に、コーパス分析による言語学的研究成果を英語教育に活かすことがあげられる。これをさらに2つに分類すると、1つ目が、英語母語話者コーパスを利用した、語彙文法・ディスコース・音声音韻研究、社会言語学や歴史言語学、さらには第一言語習得研究における研究成果の英語教育への活用があり、その典型的成果物は文法書と辞書である。2つ目が、非母語話者コーパス（学習者コーパス）を使った第二言語習得研究の成果を英語教育に活用することである。

第二に、コーパス自体を教育に活用することがあげられる。これをさらに2つに分類すると、1つ目が、コーパスを利用した教材・テスト・語彙表作成や教材評価、すなわち、

1) 齊藤他編（2005：3-5）参照。

コーパスの教育への間接利用で、2つ目が、コーパスを教室での教育に導入すること、すなわち、コーパスの教育への直接利用である。この2つ目の直接利用は、さらに2つに細分化が可能で、ひとつが、コーパス言語学を教える目的、もうひとつが、英語学習目的によるコーパスの教室への導入である。以上は表1のようにまとめられる。

表1 コーパス言語学と英語教育との関わり

[1] コーパス分析による言語学的研究成果の英語教育への応用	[1.1] 母語話者コーパスを利用した言語研究	歴史言語学、社会言語学、語彙文法・ディスコース・音声音韻研究、第一言語習得
	[1.2] 非母語話者(学習者)コーパスを利用した言語習得研究	第二言語習得(誤用分析)
[2] コーパス自体の教育利用	[2.1] 間接利用	教材・テスト作成 語彙リスト作成・教材評価
		[2.2] 直接利用
		[2.2.1] コーパス言語学教育目的 [2.2.2] 英語学習目的

英語教育の視点からコーパス利用法を見た分類としては、投野(2008:3-4)にも言及されているLeech(1997:6-10)の3分類がある。第一に、コーパスの教室への直接利用で、そのなかには、(a)コーパス言語学を教えるための導入(teaching about)、(b)学生が自分の目的に合わせてコーパスを使うための導入(teaching to exploit)、(c)新たにコーパスを利用して特定の教えるべき項目を習得させるための導入(exploiting to teach)の3つが含まれている。第二に、コーパスの教育への間接利用で、(a)辞書・文法書・参考書編纂(reference publishing)や、(b)コーパスを利用した教材・語彙表作成(materials development)やテスト・教材評価への応用(language testing)が入る。第三に、教育志向のコーパス編纂が挙げられ、(a)学習用コーパス、(b)第一言語発達研究用コーパス、第二言語習得研究用コーパス(非母語話者コーパスまたは学習者コーパス)、(c)多言語パラレルコーパス編纂が含まれている。ただ、Leechと前述の筆者の分類の相違は、視点の違いによるものであり、分類によって研究そのものや利用法が変わるわけではない。

いずれの分類にせよ、コーパスを英語教育目的で教室に導入することは(筆者の分類[2.2.2]、Leechの分類第一の(b, c)にあたるが)、投野(2008:4)にも指摘されているように、まだ試験的段階である。普及しない要因は、ひとつには、教育実践としての効果が証明されていないこと、もうひとつには導入の目的・意義・教育方法が十分に認知されていないことが考えられる。筆者はこれまで英語教育にコーパスを取り入れる実践を報告し、その意義を論じてきた(梅咲2004b, 2005a, b; 2006a, 2007c, d; 2008a, b)。本稿では、コーパスを教室における直接利用の最近の動向とともに、コーパスの教室への導入の目的と意義をさらに明確にし、教育方法を例示し、学生評価を中心に教育効果の提示を試みる。

2. コーパスの教室への直接導入に関する動向

2.1 著作

すでに1994年に Lancaster 大学で第1回 TALC (1st Conference on Teaching and Language Corpora) が開催され、その発表が大半を占める²⁾*Teaching and Language Corpora* (Wichmann et al. ed. 1997) が刊行され、英語学習のためのコーパスの直接利用の議論が始まっている。同年に刊行されたテキスト *Concordances in the Classroom* (Tribble and Jones 1997) は、コーパスの直接・間接利用の実践例を掲載している。それ以前の1991年にすでに、バーミンガム大学の留学生の言語教育にコーパスを使用することに尽力した Tim Johns は、Data-Driven Learning (DDL) を開発し、提唱している (Hunston 2002 : 170, Bernardini 2004 : 16)。その後、直接利用は、Aston ed. (2001), Hunston (2002), Sinclair ed. (2004), Gavioli (2005), O’Keeffe et al. (2007), Aijmer ed. (2009), Bennett (2010), O’Keeffe and McCarthy (2010), Reppen (2010) などに扱われている。また、McEnery et al. (2006) のようにコーパス言語学研究の一部として一定の言及がなされていることもある。このように、1990年代前半から、コーパスを英語学習の目的で教室に導入する試みはあったが、それに関する著作はこの1、2年に増えてきている。

2.2 コンピュータ、コーパス、検索技術の進歩

コーパスを英語教育のためにコーパス言語学を専門としない学生に使用させるには、コンピュータとコーパスの普及、使い易い検索ソフトが必須である。まず、日本におけるコンピュータの普及を世帯保有率にみると、1995年に16.3%、2000年に50.5%、2005年に80.5%、2006年に80.8%、2007年に85.0%と上昇し、インターネット世帯利用率をみても、1995年数値記載無、2000年34.0%、2005年87%、2006年79%、2007年91.3%となっている (総務省情報通信国際戦略局2010)。このデータから、8割を超える世帯がPCを所有しインターネットを利用するようになったのは、2005年以降であることが分かる。

次に、コーパスの普及について辿る。コーパス言語学の始まりは、1950年代末から1960年代初めである。すなわち、1959年に開始されたイギリスの The Survey of English Usage 計画 (通称 SEU Corpus は非電子だが一定のコーパスデザインを持つ、話し言葉部分が London-Lund Corpus として電子化されたのは1975年) と、世界初の電子コーパス通称 Brown Corpus (アメリカ合衆国1961年の刊行物から15カテゴリー、1テキスト2,000語を500、計100万語) が1961年から1964年にかけてアメリカ合衆国 Brown 大学で編纂されたときであると言われている (齊藤他 2005: 5, Leech 1991)。しかし、初期のコーパスは100万語規模で、語法・文法研究に必ずしも十分なデータを提供できなかった。

2) Wichmann et al. ed. (1997) の前文の情報。

1990年代は成熟期にあたり（中村 2004: 650）、大規模コーパス公開の時期である³⁾。1994年に British National Corpus (BNC) 1億語（書き言葉9,000万語、話し言葉1,000万語）が完成した。日本にその World Edition が公開されたのは2000年である。モニターコーパス（総語数を固定せず資料を追加してゆくコーパス）である Bank of English は、1995年に2億語に達し、そのうちの2000万語が COBUILDdirect（現名称 Wordbanks Online）としてオンライン検索できるようになった。2003年5月に5億2000万語を超え、2004年8月時点で約5,600万語がオンライン利用可能であった⁴⁾。2009年7月からはオンライン利用でも5.5億語にアクセスできる。また、2007年には15億語以上集めた ukWaC（ukドメインのウェブ上の英文を収集して品詞タグ付けしたモニターコーパス）が Sketch Engine の検索サイトで利用可能になった（Ferraresi et al. 2008）。2008年初め Corpus of Contemporary American English (COCA: 3億6500万語) のオンライン検索が公開され、2010年には4億1,000万語に達している（Davies: 2010b）。以上コーパス編纂と公開の歴史をみると、複数の1億語を超えるコーパスの利用が可能になるのも2005年以降であることが分かる。

さらに、検索プログラムを見てみる。例えば、BNCは2000年に日本でも利用できるようになったが、本格的検索のできる SARA（現在は XAIRA）は、コーパスの専門家以外には簡単に利用できるソフトではない。英語学習者一般が使い易く、しかも本格的検索の可能なオンラインシステムが公開されるのは、2003年9月の SCN-BNC（小学館コーパスネットワークシステムによる検索）や、2004年の BYU-BNC（Brigham Young 大学 Mark Davies 氏開発; Davies 2010a）であり、さらに Sketch Engine-BNC（Adam Kilgarriff 氏の Lexical Computing Ltd. が提供する Sketch Engine による検索）がある⁵⁾。

3) コーパス言語学発達の歴史は、齊藤他編（2005）、中村（2004）、梅咲（2007a）に記載。

4) WordbanksOnline の当時の語数は、サブコーパスの語数を合計すると5,700万語強になるが、本稿ではサブコーパスを提示しないため、Harper Collins 社の当時の解説文にある5,600万語を採用した。

5) 大規模コーパスと検索プログラムを一体化したオンラインコーパスの公開は、コーパス利用を急速に拡大している。主要なオンラインコーパスを以下に挙げる（2010年7月現在）。

A. BNC（1億語）を検索できるサイト

BNC Homepage <http://www.natcorp.ox.ac.uk/> Oxford 大学の BNC 編纂機関としての情報提供と単純検索サイト。

BNCweb (CQP-version) <http://bncweb.info/> Lancaster 大学提供。

BYU-BNC <http://corpus.byu.edu/bnc/>

SCN-BNC (有料) <http://www.corpora.jp/> 小学館コーパスネットワーク。

SketchEngine-BNC (有料) <http://www.sketchengine.co.uk/>

B. その他の主要オンラインコーパス

BYU Corpora <http://corpus.byu.edu/> Brigham Young 大学 Mark Davies 氏のサイト。COCA (Corpus of Contemporary American English アメリカ現代英語1990-2009年のテレビにおける話し言葉と書き言葉計4.1億語)、Time Corpus (1923-現在までのタイム誌1億語) 他の検索可能。

ukWaC (有料) <http://www.sketchengine.co.uk/> Sketch Engine からイギリスのウェブサイトの英語、15億語強の検索可能。

WordbanksOnline (有料) <http://www.collinslanguage.com/wordbanks/default.aspx> Harper Collins 社提供の Bank of English 5.5億語が Sketch Engine で検索可能。SCN (URL は SCN-BNC 参照) で 5,600万語分の検索可能。

PERC Corpus http://www.corpora.jp/~perc04/index_j.html 自然科学分野の論文1,700万語を SCN で検

以上の歴史から、コンピュータ、コーパス、検索ソフトの3つが英語学習者一般に普及するのは、少なくとも日本では2005年以降である。従って、これまで試験的に教室に直接導入されてきたコーパス利用を推進できる条件が現在整ったと言えよう。

3. 直接利用の意義

日本人英語非母語話者は、大学卒業後一定の英語力を持ちながら、特に英語を書いて情報発信するのを躊躇しがちである。そのために被る不利益は深刻である。躊躇する大きな要因は、単語は思いつく、あるいは辞書で見つけることができても、どう組み合わせればよいか、または組み合わせて作った表現が実際にこなれた言い回しであるかどうか、絶えず不安がつきまとうことであろう。

その解決策として筆者は「辞書とコーパスで自信を持って楽しく英語を使おう」を提唱している。英語の読み書きに辞書が必須であることを日本人英語学習者は周知している。しかし、辞書だけでは、思いつく単語の組合せの可否を判断できない場合が多い。コーパスの用例検索から頻度の高い言い回しを選択して使用すれば、不自然な表現を使ってしまう危険が減る。また、コーパスから対象語の共起語を検索・列挙することで、適切な表現にたどりつくこともできる。

「辞書とコーパスで自信を持って楽しく英語を使う」ことを究極の目標に、コーパスを教室に導入する。この究極の目標達成のために、個別目標として、(1)学習者がコーパスを利用した発見学習(問題解決学習)を行うこと(梅咲 2007b)、(2)そのために必要な、コーパスと検索ソフトの使用法を習得させること、(3)教室を離れて自らコーパスを利用したいと思えるように、コーパスを使う喜びと重要性を認識させることの3点を立てる。Aijmer (2009: 3) の言葉を借りれば、“the learner as a researcher” の実践である。実践方法として、ひとつは、教師が学生に習得させたい文法項目や表現を学ばせるために、コンコーダンスラインを画面上に出力させ、実例に触れさせることで言語現象を納得させるやり方で、学生には実例から規則が導き出せるようにする。もうひとつは、学習者自身が疑問に思うことを解決するために、調べる必要のある語句を検索をさせるやり方が考えられる。後者の学習者のニーズを重視した問題解決のための検索にも、教室では一定の教員の指導が必要となろう。従って、この2つの実践は、初期の目的は異なっても、教員の教室での役割は同じであり、発見(問題解決)のための手助けということになる。

索可能、2008年に公開(SCN ホームページの情報)。

MICASE (Michigan Corpus of Academic Spoken English) <http://quod.lib.umich.edu/m/micase/>

Michigan 大学での講義、学生の討論、学生指導等の話し言葉180万語の検索可能。

Web Concordancer <http://www.edict.com.hk/concordance/> LOB, Brown 他を検索可能。

4. 理論的背景

英語で表現する際に、語の組合せが上手く出来ないことを解決するための手段として、コーパス利用を提唱する理論的背景にフレイジオロジーがある。ここでいうフレイジオロジーとは、統語上可能な語と語の結合であっても、特定の語と語の間には他の語と語の結びつきよりも強いものが存在し、さらにそれらの語どうしの結合やパターンが特定の意味や機能をもつことがあり、人間は、統語規則とともに脳に蓄積された慣習的な語と語の結合（フレーズ）を駆使してことばを発しているという理論である。この考え方は、赤野（2003, 2008）、八木・井上（2008）、南出（2009, 2010）にも共通するであろう。語と語の関係を量的に明示できるのがコーパスである。従って、非母語話者がコーパスを使って母語話者のフレーズの慣用を知ることは言語理論にもかなったことと言えよう。次にコーパス検索の教室での利用例を紹介する。

5. フレイジオロジーに基づく教育実践例

「辞書とコーパスで自信を持って楽しく英語を使う」ことをめざす教育は、特別のカリキュラム編成は不要で、コーパスを英語習得の目的で教室に導入することができる。例えば、英語リーディングやリスニング、ライティングやコミュニケーションといった4技能別コースの授業をコンピュータ教室で行えればよい。オンラインコーパスとして、SCN-BNC; BYU-BNC, COCA; Sketch Engine-BNC, ukWaC を用いる⁶⁾。また、特定目的の英語教育（ESP）でも究極の目標に変わりはなく基本的な導入法もほぼ同じである。ただ、学術論文作成コースであれば、PERC Corpus（註5参照）のように、対象分野のコーパスがあれば利用するほうが望ましい。

本稿では、英語表現・コロケーションの習得を中心にした例を紹介する。どのコースでも大抵のテキストには、単元の重要単語がリストアップされている。語義の確認だけに終わらず、コロケーションを、コーパスを使って確認させる。

5.1 complaint を例に

習得すべき語彙に complaint があれば、「苦情、不平」という語義の確認で済まらず、どのような動詞と共起するかをコーパスで確認させる。その際には、(1)の下線部に入る動詞をコーパスから探させることもできる。

6) どのコーパスを使用するかは、大学の事情によるが、SCN-BNC は検索画面が日本語で使い易い。無料で使える点ではBYU-BNC, COCA が良い。量的に大きさを必要とする場合は Sketch Engine-ukWaC がふさわしい。どれも本格的検索ができるが、多少可能な検索が異なる。

(1) I have to write a letter to _____ a complaint to the manufacturer.

(製造業者に苦情を言う手紙を書かないといけない。)

日本語母語話者の場合、make よりも give のほうを選択する確率が高いかもしれない。また、say を入れる可能性もある。しかし、SCN-BNCで complaint のコンコーダンスラインを出力すると⁷⁾、(2)が得られる。また、make a complaint で検索すると make の活用形を含めて47回出現するが⁸⁾、give a complaint は0回で、say a complaint で「苦情を述べる」を意味する連続はない⁹⁾。Sketch Engine-ukWaC の Word Sketch を使用すると、complaint を目的語にとる動詞を頻度順に示すことができる¹⁰⁾。結果は(3)にまとめた。最も高頻度の動詞は make で、このリストに give は出てこない。コンコーダンスラインにも、「苦情を述べる」を表す give a complaint の例はない。コーパス検索を使って学習者に complain の語義だけでなく make a complaint というフレーズを体得させることができる。

(2) complaint, 左ソートによるコンコーダンス画面の一部 (SCN-BNC)

ID	Context	complaint
296 AJT	ng a little disgruntled and almost inevitably he	make a complaint
297 CBF	" If all else fails, make a	complaint to the General Medical Council where all medi
298 BP5	competitors which infringes EC competition rules can make a	complaint to DG IV against the parties concerned .
299 AM0	How do I make a	complaint ?
300 G3J	nder s.16(1) to object to the grant of a licence may make a	complaint about that licence to the licensing board (sut
301 G3M	nder s.16(1) to object to the grant of a licence may make a	complaint about that licence to the licensing board (sut
302 B32	You may make a	complaint by using a special complaint card which will be
303 CBG	ater released without charge because Hurlock did n't make a	complaint .
304 A5Y	t row the husband stabbed the wife and she would n't make a	complaint about it .
305 GY4	tch to do not noisy parties , but it could do , then make a	complaint to Newark and District Council
306 CA0	" I've come to make a	complaint . "
307 HVD	Th there was no point , the chain of command to make a	complaint was blocked .
308 B08	liament has granted to victims of discrimination to make a	complaint to an industrial tribunal .
309 AND	information about how to make a	complaint according to arrangements established under
310 AYK	Perhaps you need to make a	complaint or let your feelings be known .
311 A7Y	n abatement notice the local authority is obliged to make a	complaint to the magistrates .
312 K1W	arge , because no one who was injured is prepared to make a	complaint .
313 KMD	The victims of harassment are reluctant to make a	complaint for a number of reasons .
314 CM3	t his boots on and went off to the police station to make a	complaint of assault .
315 FCT	f all the necessary material facts to enable them to make a	complaint a civil claim if they so wished .
316 G1F	the parent - when , for example , one wants to make a	complaint while the other wants to give advice .
317 G2P	more time for patients to decide whether to make a	complaint (up to 13 weeks after the event) ;
318 B08	dismissal rights , the next step might be for you to make a	complaint to the industrial tribunal .

ただ、授業の初期の段階では、当該語句がコンコーダンスラインに現れても、求める用例でないこともあると学習者に気づかせるために、教員の手助けが要る。さらに、なぜ complaint が give と共起する例がないかを考えるには、教員の指導が必要であろう。

7) SCN では、最大用例を20000件、コンコーダンスラインも最大20000行まで1ページに表示できる。表示設定を変更しておく必要がある。

8) 基本形で検索にチェックを入れる。

9) She said a complaint over the policy was made to Local Government Ombudsman, ...の例はあるが、...said that a complaint...であり、検索対象の用例ではない。

10) Word Sketch をクリックし、Advanced Options をクリック、Sort Collocations according to を Raw Frequency に変更し、Lemma に検索語を入力、Part of Speech を選択する。

(3) complaint と共起する動詞（活用形を含む）の頻度（上位25）

動詞	頻度	動詞	頻度	動詞	頻度	動詞	頻度
make	7181	resolve	1208	lodge	582	raise	298
have	2880	handle	984	file	539	submit	273
receive	2567	consider	810	hear	425	get	272
be	2567	follow	670	bring	341	put	248
investigate	2354	take	655	pursue	324	address	233
uphold	1533	refer	596	deal	321	register	230
						acknowledge	200

(3)から何が分かるかを授業で議論することもできる。実際に大学院の授業では、give は良いものを相手に与える場合に使うのではないかという発言があった。「苦情」は receive や take のように話し手が受け取ることはあっても、好ましくない感情は相手に与えることを避けるために give は用いない、好ましくない感情を相手に伝える場合は、submit や file のような give よりも正式 (formal) な動詞を使うのかもしれない。授業で、この点をさらに深めるかどうかは受講者次第だが、次に make と give に後続する名詞を調べる。

5.2 make と give

この2つの軽動詞に続く名詞をコーパスで検索すると、軽動詞の選択について感覚がつかめる。(4)と(5)は make と give に続く名詞を SCN-BNC で出力した画面である¹¹⁾。(4)には、2番の列に「make (変化形を含む)+[a, an など何か1語]+名詞」のパターンに現れる名詞が高頻度順に示されている。(5)には同様に give と共起する名詞が列挙される。ただし、2番の列には、is given in Table x の table のような、今回の分析対象ではない名詞も含まれるので、データの読み方に注意しなければならない。

(4)と(5)から、動詞にも使われるか、動詞の派生形の名詞を抽出すると、make a | an に続く名詞には、decision, difference, (point), mistake, (effort), statement, progress, change, profit, attempt, contribution, comment, (noise), choice, order, move, note¹²⁾があるのに対し、give a | anの後には、impression, (opportunity), information, indication, support,

11) 共起検索画面で、中心語に make を入力、基本形で検索にチェック、中心語の品詞に一般動詞を選択、品詞設定に普通名詞を選択して、検索をクリックする。同様に give も検索する。

12) 調べてゆくうちに、新たな課題に出くわす。例えば、SCN-BNC には、make a note (make の変化形を含む) は、243回見られ、そのうち191回は make a note of のパターンで表れ、make note は9回 (内 make note of 7回)、make notes 147回 (make notes of 14回)。同様の検索で、take の場合は、take a note は14回 (内 take a note of 13回) だが、take note が277回 (内 take note of 204回)、take notes が133回 (内 take notes of 14回) であった。頻度から make は note, take は a note と共起することが少ないのに対し、take note, make a note はどちらも100回を超えている。すなわち、note を抽象名詞として使用して「注目する」を意味する場合は take note が一般的で、「記録に残す」を意味する場合は make a note を普通使用する。その複数形 notes は、make, take とともに可能である。以下の例のようにどちらかと言えば、make notes of の後には具体的な記録すべきものが来ることが多く take notes of の後には要点のような漠然とした内容を

(4) 動詞 make と共起する名詞

女:100件 ソート:共起頻度:基本形														
-1	0	1	2	3	4	5	1..5							
decision	856	make	sense	1691	way	1583	contribution	717	time	298	time	328	sense	2737
people	276		use	1218	decision	1272	decision	703	people	273	year	294	decision	2709
statement	217		love	901	difference	1230	mind	655	year	235	people	253	way	2499
point	206		thing	557	point	975	difference	592	way	183	way	228	use	2476
man	184		money	549	mistake	947	point	433	decision	171	life	158	difference	2033
policy	182		decision	470	use	780	mistake	339	day	166	man	155	point	1676
claim	159		contact	464	effort	776	effort	321	mind	161	child	152	mistake	1649
payment	158		life	437	sense	734	time	300	money	161	thing	152	contribution	1403
order	150		people	411	statement	720	start	279	point	160	day	147	people	1362
comment	147		way	298	progress	566	statement	272	contribution	148	work	138	money	1269
company	145		arrangement	281	change	523	use	268	child	140	place	131	effort	1233
demand	136		provision	267	profit	521	noise	264	difference	138	fact	122	statement	1221
change	126		mistake	266	attempt	509	debut	252	life	138	company	120	time	1162
contribution	124		progress	257	contribution	424	choice	251	part	135	government	118	thing	1154
government	124		friend	255	comment	375	appearance	247	tea	134	world	118	change	1127
time	115		public	204	noise	367	change	240	work	134	part	113	life	1087
woman	112		change	195	choice	351	attempt	235	thing	131	number	111	love	994
use	110		matter	193	order	348	impact	233	use	124	service	108	progress	989
film	97		representation	184	move	338	work	218	home	123	party	105	mind	978
friend	95		recommendation	181	lot	335	order	214	fact	121	money	103	profit	967
progress	93		room	181	note	334	people	214	man	114	tea	102	year	902
child	92		note	156	money	332	call	212	government	112	house	101	noise	848
profit	89		plan	154	claim	319	year	210	noise	111	information	100	attempt	841
party	88		profit	145	living	297	impression	209	change	107	group	98	choice	838
home	87		enquiry	144	debut	273	way	207	court	106	woman	94	order	778

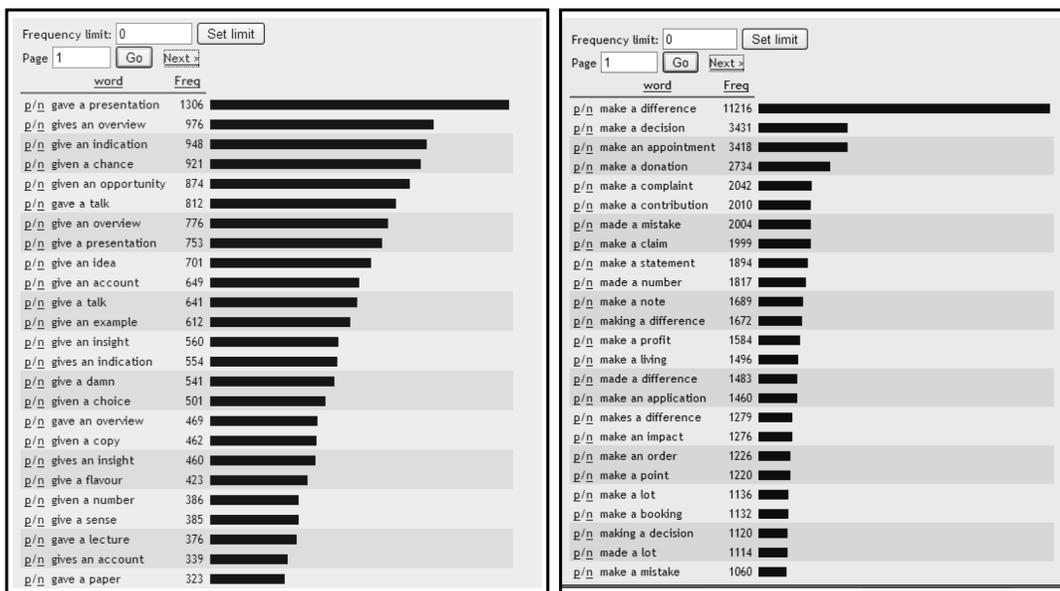
(5) 動詞 give と共起する名詞

ソート:共起頻度:基本形														
-1	0	1	2	3	4	5	1..5							
reason	203	give	rise	1935	impression	657	chance	793	chance	394	time	264	rise	1985
information	158		way	1322	time	480	opportunity	508	time	387	chance	164	chance	1669
name	131		evidence	697	opportunity	449	idea	405	look	332	life	162	time	1630
example	111		birth	636	name	446	time	382	opportunity	217	view	137	way	1545
advice	108		detail	348	information	383	money	337	smile	211	year	136	opportunity	1317
man	106		advice	341	indication	337	information	311	number	196	people	135	information	1167
people	106		notice	289	support	316	name	311	name	185	day	128	name	1071
government	104		people	242	chance	311	ring	247	right	184	child	117	impression	1011
time	90		effect	229	advice	266	hand	244	information	152	power	111	evidence	938
support	86		priority	225	power	250	job	240	power	142	look	108	advice	915
figure	83		information	224	detail	225	impression	239	people	135	number	100	money	875
minister	80		access	193	child	219	answer	238	year	134	information	97	power	828
evidence	71		permission	173	thought	210	example	236	idea	130	opportunity	95	people	807
woman	70		reason	159	money	208	number	235	support	125	name	94	detail	802
act	67		order	142	example	207	smile	234	view	122	week	87	support	802
answer	65		money	131	attention	205	right	230	money	117	work	85	idea	780
party	62		instruction	127	reason	200	power	226	answer	113	money	82	number	721
report	62		credit	123	answer	194	lift	209	day	111	service	81	right	679
subject	62		support	117	consideration	181	account	203	thought	108	right	78	birth	671
doctor	60		time	117	number	176	laugh	203	glance	100	idea	75	child	638
instruction	59		direction	107	life	174	advice	179	child	94	man	74	example	624
friend	58		thanks	101	people	170	support	173	sense	94	support	71	notice	612
book	57		power	99	table	169	bit	167	life	92	way	71	answer	602
priority	56		example	96	right	167	indication	160	account	90	smile	69	reason	600

指す語が続く傾向がある。(a)With only one item per card, there is plenty of room to **make notes** of recipes, cooking times or whatever other information you feel would be helpful. [ARJ] (b)Our days and nights were ruled by the clock. Every hour the assistant on duty had to read the instruments, **make a note** of the wind speed and direction, the visibility, the cloud, precipitation (if any), and whether the barometer was rising or falling, and then stand by to teletype the details in code to Group Headquarters, who in turn would

(chance), advice, (power), thought, (example), attention, reason, answer, considerationが続いている。抽象的内容でも、後者の名詞は、その内容を A から B へ移動することでその名詞の動詞形が示す行為の意味を伝えることになる。他方、前者の名詞は、その内容を動詞の主語が作り出すのが基本である。この中では、give に後続する名詞に好ましくない感情を表す名詞は見当たらないが、逆に make に後続する名詞にも noise 以外好ましくない内容を表すものはリストにはない。

(6) Sketch Engine-ukWaC による



(7) Where dismissal does occur, employees may make a complaint to an employment tribunal if they believe they have been unfairly dismissed, although ordinarily the employee must have one year's service. [ukWaC : # 411428763] (解雇が実際に起こるところでは、従業員は、不当解雇されたと思えば、雇用問題審判所に告訴することができる、ただし1年間の雇用期間がなければならない。)

そこで、Sketch Engine_ukWaC (15億語余) から「give+[a または an]+名詞」、「make+[a または an]+名詞」を抽出した。(6)はその高頻度順リストである¹³⁾。動詞 give と共起する名詞 (presentation, talk, indication など) は、動詞本来の意味である、相手に情報などの伝達 (移動) をする行為を示すものが多いのに対し、make は抽象的な行為や事象

transmit it to Bomber Command. [B3F] (c) We should **take note** of reports that the Ove Arup route chosen by the Government will wreck a £ 1 billion scheme for 7,000 jobs and 6,500 new homes....[HMSO] (d) A video recording of a meeting could give practice in **taking notes** of main points. [FUA] SCN-BNC では、両者の頻度にさほどの差がないのに対し、BYU-COCA には、make notes 342回に対し、take notes 1211回出現している (4億1千万語中)。BYU-TIME では、それぞれ44回と226回である。アメリカでは、take notesの方が好まれると言える。

13) Concordance をクリックし、Query Type をクリックし、CQL を選択、[lemma="give"] "a|an" [tag="NN"] を入力。コンコーダンスラインが表示されたら、Frequency のなかから Node Form を選択する。

を作りだすことを示す名詞と共起する傾向にあることがより明確に分かる。(6)を見ると要求するという相手には好まれない行為について make a claim の形は、1999例確認できるが、ukWaC でコンコーダンスを出力すると give a claim は変化形を含めても7例しか見られない。なお、make an application (申請をする) 1460例に対して、give an application は変化形を含めて38例あるが、基本的に意味が異なり¹⁴⁾、make a contribution (貢献する、寄付をする¹⁵⁾) は2010例見られるのに対して、give a contribution は変化形を含めて26例と大差がある。「不平・不満・苦情・告発」を表す名詞 complaint が give ではなく make と共起する要因は、complaint が抽象的な行為であり、しかも好ましくないものであるがゆえに、相手に伝達・移動させる前に、自身がそれを作りだすことを示すほうがことばとして相応しいという感覚が働くと考えるのは妥当であろう。

5.3 in custody

同様に、例えば(8)のように in custody が出てきた場合、BYU-BNC と BYU-COCA でその直前の動詞を調べると、(10)に示す結果が得られる¹⁶⁾。BNC には、非常に高頻度で be remanded in custody (拘留されている) が現れている。しかし、COCA では remanded はほとんど上位に上がらない。イギリス英語によく用いられる表現と分かる。さらに、コンコーダンス画面で出典をみると、be remanded in custody は、大半が報道記事やニュースであることも分かる。その上、(9)に示すように、be remanded in custody の後には、charged with...が続くことも分かる。

(8) Eleven young British-born Muslim men have been charged in the plot, and others are in custody undergoing questioning. [VOA] (イギリス生まれのイスラム系青年11名がその容疑で告発され、他にも取り調べのために拘留されている人がいる。)

(9) AN 18-year-old Belfast youth has been remanded **in custody** charged with attempting to snatch a woman's purse in a telephone box on Belfast's Lisburn Road on Friday night. [BNC: The Belfast Telegraph] (ベルファーストの18歳の青年が金曜の夜 Lisburn Road の電話ボックスで女性のバックをひったくろうとした罪で告訴され拘留されている。)

5.4 watch in horror as 節

英文を読んだり聞いたりしていると、気になる表現に出くわすことがある。例えば、(11) の watch in horror as もそのひとつかもしれない。SCN-BNC で watch in horror を検

14) コンコーダンスラインには be given an application form, giving an application of his ideas to astronomy (後の考えを天文学に応用する) などが見られる。

15) 次の(a)と(b)の例のように、make a contribution は金銭的貢献、「寄付をする」を表す場合と金銭とは直接関係のない貢献、「寄与する」を表す場合がある。(a) We urge as many people as possible to **make a contribution** to this fund so that our comrades can be buried in dignity. All those who are able to make a donation should make a deposit to: People's Bank,...(b) Personal development does not **make a contribution** to the advancement of knowledge,...

16) [v*] in custody で検索する。

索すると(13)の画面が見られる。

(10) BYU-BNC を用いた in custody と共起する直前の動詞

順位	BYU-BNC	頻度	順位	BYU-COCA	頻度
1	REMANDED IN CUSTODY	255	1	IS IN CUSTODY	88
2	HELD IN CUSTODY	21	2	ARE IN CUSTODY	59
3	BEEN IN CUSTODY	12	3	WAS IN CUSTODY	58
4	WAS IN CUSTODY	11	4	HELD IN CUSTODY	30
5	DIED IN CUSTODY	9	5	BEEN IN CUSTODY	25
6	KEPT IN CUSTODY	9	6	REMAIN IN CUSTODY	24
7	WERE IN CUSTODY	7	7	'S IN CUSTODY	21
8	IS IN CUSTODY	7	8	WERE IN CUSTODY	20
9	ARE IN CUSTODY	4	9	BE IN CUSTODY	18
10	REMAINED IN CUSTODY	4	10	HAVE IN CUSTODY	15
11	REMAIN IN CUSTODY	4	11	DIED IN CUSTODY	13
12	SPENT IN CUSTODY	3	12	REMAINS IN CUSTODY	11
13	PLACED IN CUSTODY	3	13	KEPT IN CUSTODY	9
14	BE IN CUSTODY	2	14	REMAINED IN CUSTODY	6
15	DETAINED IN CUSTODY	2	15	'RE IN CUSTODY	5
16	REMAND IN CUSTODY	2	16	HAS IN CUSTODY	4
17	WAITED IN CUSTODY	1	17	HAD IN CUSTODY	4
18	SERVED IN CUSTODY	1	18	PLACED IN CUSTODY	4
19	SERVE IN CUSTODY	1	19	PUT IN CUSTODY	3
20	PUT IN CUSTODY	1	20	TAKEN IN CUSTODY	2
21	OVERCROWDING IN CUSTODY	1	21	REMANDED IN CUSTODY	2
22	LEFT IN CUSTODY	1	22	YOU'RE IN CUSTODY	1
23	KILLED IN CUSTODY	1	23	WEPT IN CUSTODY	1
24	HAVE IN CUSTODY	1	24	WENT IN CUSTODY	1
25	COMPOSED IN CUSTODY	1	25	USED IN CUSTODY	1
26	BEING IN CUSTODY	1	26	SUSTAINED IN CUSTODY	1
27	'S IN CUSTODY	1	27	SUSPECT IN CUSTODY	1
28	'RE IN CUSTODY	1	28	STAYED IN CUSTODY	1
	Total	367	29	STAY IN CUSTODY	1
			30	SPEND IN CUSTODY	1
			31	SPECIALIZES IN CUSTODY	1
			32	PROVEN IN CUSTODY	1
			33	MURDERED IN CUSTODY	1
			34	MADE IN CUSTODY	1
			35	LANGUISHED IN CUSTODY	1
			36	KILLED IN CUSTODY	1
			37	HIRED IN CUSTODY	1
			38	BEATEN IN CUSTODY	1
			39	GOT IN CUSTODY	1
			40	ENDED IN CUSTODY	1
			41	EMBROILED IN CUSTODY	1
			42	DO IN CUSTODY	1
			43	COME IN CUSTODY	1
			44	CLAIM IN CUSTODY	1
			45	BELONG IN CUSTODY	1
			46	BEING IN CUSTODY	1
			47	'M IN CUSTODY	1
			Total		447

(11) When Japan won another free-kick shortly afterwards, the Danes were clearly expecting another piledriver from Honda, but instead they watched in horror as Endo's exquisite strike curled around the wall and past the outstretched arms of Sorensen. [BBC] (その直後に日本が再びフリーキックを得た時、デンマークは本田からもう一本シュートが来るものと思い込んでいたが、代わりに、遠藤の巧みなシュートが壁を巻いて、ソレンセン選手の伸ばした手をすり抜けるのを見て茫然とした。)

(12) Staff and customers **watched in horror** as he poured the petrol over himself and set himself alight. [BNC: The Belfast Telegraph] (スタッフや店の客は、彼がガソリンを体にかけて、火をつけたのを見て、ぞっとした。)

(13) watch in horror (右ソート、基本形で検索) のコンコーダンスライン (SCN-BNC)

6 CH2	TV viewers worldwide watched in horror	as hated tinpot dictator Brigadier Joshua Gqozo ordered
7 AMB	Endill watched in horror	as he began hitting the handle , swinging against it wi
8 CH6	Shoppers in Manchester's Moss Side watched in horror	as he crashed into parked cars .
9 GV6	have invented the whole thing - except that I had watched in horror	as he deliberately forced the wretched mestizo over the
10 K35	Staff and customers watched in horror	as he poured the petrol over himself and set himself al
11 ANU	s , he was put into irons ; the Christian defenders then watched in horror	as he was dragged before the castle and tortured in fro
12 CH2	Friends on the ground watched in horror	as he was towed along for 20 seconds before managing to
13 CBF	Mrs Hitchcock's other daughter Stella watched in horror	as her mother was slashed on the arms and face as she t
14 CH2	CUB scout John Moore watched in horror	as his father 's body was pulled from a lake during a a
15 CCP	Graham watched in horror	as lain slid down a rocky buttress , and then waited on
16 CJV	Graham watched in horror	as lain slid down a rocky buttress , and then waited on
17 CGB	ral hours glued to the television at a friend 's house , watching in horror	as incomprehensible events began to unfold in South Cen
18 CBF	Revellers watched in horror	as James Savva , 43 , was knifed to death during an arg
19 K8T	Charlie watched in horror	as Makepeace fell across the barbed barrier and another
20 G0E	lled away from the window into the centre of reception , watching in horror	as Pearce continued to scream in panic at them .
21 CH2	Friends watched in horror	as the 15ft monster played with the body for more than
22 CH6	Spectators watched in horror	as the 19-year-old daredevil smashed into the ground fr
23 HTU	Rex watched in horror	as the black claw tore Bill 's left arm from its socket
24 CA8	We watched in horror	as the enemy opened fire and chunks of metal could be s
25 AS7	Mother watched in horror	as the fly fell from its mouth and it swam to freedom .
26 K3C	s forced to slam on his brakes as Sloane sped past , and watched in horror	as the Seat veered onto the wrong side of the road 325
27 HAF	People waiting for trains watched in horror	as the violence spread towards the Fest&rehy, val Hall
99 K35	TWO cop watched in horror	as their dad was engulfed in flames following an explo

(13)から、watch in horror には、32例中27例で(12)のように as 節が後続していることが分かる。さらに、watch と as の間には in amazement などが可能であることもコーパス検索で分かり、パターンとして記憶するとよい。

6. 授業におけるコーパスの有効性—学生アンケートより

筆者が本年度担当した、大学学部1、2年生のクラスで、授業の教科書にでてくる語彙や表現を SCN-BNC で検索させた。英語コミュニケーションⅡ (2年生対象、学生数1クラス35、市販テキスト使用、VOA ニュースリスニング中心) 2クラス、英語リーディングⅠ (1年生対象、学生数35、プリント使用、1000語程度の解説文と各種レジスターの英文を読む)、人文演習 (2年生対象、学生数7、プリント使用、英語広告文の特徴を例に

期末レポートと英文アブストラクトの書き方、さまざまなレジスターの英語の特徴の学習と英語による発表を実施)で行なった。人文演習では、90分の授業をすべて使って、SCN-BNCの使い方とコーパスについて説明し、その後2回10分ほどの検索を実践した。その他の3クラスでは、授業で扱う単語やフレーズに着目して、語句習得のために、第1回目約20分でコーパスについて説明し、それ以後約10分程度3-4回、コーパスを利用した。アンケートは、春学期の授業評価アンケート時の予備項目欄を使用して行った。表2にその結果を示す。

表2 アンケート結果

クラス・アンケート項目 () : 回答数	British National Corpus の 使い方は理解できた	コーパスは英語習得に有効 だと思う
人文演習 (7)	3.8	4.7
英語コミュニケーションⅡ A (20)	3.2	3.9
英語コミュニケーションⅡ B (27)	3.0	3.4
英語リーディングⅠ (29)	3.0	3.3

注 数値は5段階の選択方式で、5：そう思う、4：どちらかというと思う、3：どちらとも言えない、4：どちらかというと思うは思わない、1：そうは思わない。

表2に示す通り、「コーパスが英語学習に非常に有効だと思う」と解答した学生が最も多いクラスは、コーパスの利用法をSCN-BNCを用いて90分十分に説明できた少人数のクラスであった。まだ調査段階ではあるが、一定の習熟度のある学生に十分使い方を指導すれば、コーパス利用は浸透すると考えられる。

7. おわりに

英語指導者がそばにいなくても「辞書とコーパスで自信を持って楽しく英語を使う」ことのできる日本人を育成するためのコーパスの教室への導入を提唱した。それは、コーパス言語学の研究手法と言語理論上、理にかなった英語教育へのコーパスの応用であることを論じた。さらに、現在その機が熟していることを述べた。教室への導入の一例として、complaintと共起する軽動詞、さらに「軽動詞+a|an+名詞」における軽動詞giveとmakeの選択、in custodyと共起する動詞をあげ、コーパスを利用すれば、従来とは異なった英語表現の習得方法が可能であることを示した。授業アンケートの結果も肯定的に捉えられるため、今後もコーパスの教室への導入を促進してゆきたい。そのための今後の課題として、コーパスを直接導入した英語教育用の体系だったテキストの編纂や導入効果の客観的データの収集に努めたい。

ただ、英語非母語話者が英語コーパスを使いこなすには、一定の英語力が必要である。また、検索ソフトの機能を十分認識しないで使用すると誤った結論に到達してしまうこと

がある。コーパスの教室への導入にあたっては、これらの点に十分留意して薦めてゆく必要がある。

参考文献

- Aijmer, K. (2009) *Corpora and Language Teaching*. Amsterdam: John Benjamins.
- Aijmer, K. & B. Altenberg (eds.) (1991) *English Corpus Linguistics: Studies in honour of Jan Svartvik*. London: Longman.
- Aston, G. ed. (2001) *Learning with Corpora*. Houston: Athelstan.
- Bennett, G. R. (2010) *Using Corpora in the Language Learning Classroom*. Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Bernardini, S. (2004) "Corpora in the Classroom: An overview and some reflections on future developments," in J. McH. Sinclair (2004), pp. 15–36.
- Davies, M. (2010a) BYU–BNC: British National Corpus [help/information/contact]. Retrieved August 31, 2010 from <http://corpus.byu.edu/bnc/x.asp>
- Davies, M. (2010b) Corpus of Contemporary American English [Help/information/contact]. Retrieved August 31, 2010 from <http://corpus.byu.edu/coca/>
- Ferraresi, A., E. Zanchetta, M. Baroni and S. Bernardini (2008) "Introducing and evaluating ukWaC, a very large web-derived corpus of English," *Sketch Engine Trac: ukWaC British English web Corpus*. Retrieved August 31, 2010 from <http://trac.sketchengine.co.uk/wiki/Corpora/UKWaC>
- Gavioli, L. (2005) *Exploring Corpora for ESP Learning*. Amsterdam: John Benjamins.
- Hunston, S. (2002) *Corpora in Applied Linguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Leech, G. (1991) "The State of the Art in Corpus Linguistics," in Aijmer and Altenberg (eds.) (1991) pp. 8–29.
- Leech, G. (1997) "Teaching and Language Corpora: a Convergence," in A. Wichmann, S. Fligelstone, A. McEnery and G. Knowles (eds.) (1997), pp. 1–23.
- McEnery, T., R. Xiao and Y. Tono (2006) *Corpus-Based Language Studies: An advanced resource book*. London: Routledge.
- O’Keeffe, A. and M. McCarthy (eds.) (2010) *The Routledge Handbook of Corpus Linguistics*. London: Routledge.
- O’Keeffe, A., M. McCarthy and R. Carter (2007) *From Corpus to Classroom: Language use and language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Sinclair, J. McH. (ed.) (2004) *How to Use Corpora in Language Teaching*. Amsterdam: John Benjamins.
- Tribble, C. and G. Jones (1997) *Concordances in the Classroom*. Houston: Athelstan.
- Wichmann, A., S. Fligelstone, T. McEnery and G. Knowles (1997) *Teaching and Language Corpora*. London: Longman.
- 相澤佳子 (1999) 『英語基本動詞の豊かな世界—名詞との結合にみる意味の拡大』 開拓社。
- 赤野一郎 (2003) 「コーパスと語彙」『英語コーパス研究』 10, 149–161.
- 赤野一郎 (2008) 「コーパス言語学から見た語彙指導のあり方」 中村純作・堀田秀吾編 (2008) 『コーパスと英語教育の接点』 pp. 22–44.
- 南出康世 (2009) 「慣用連語とはなにか」 (特別シンポジウム「慣用連語研究の諸相」 2009.5.2. 講演ハンドアウト)。

- 南出康世 (2009) 「第9章 辞書と辞書学」岡田伸夫他編『英語研究と英語教育—ことばの研究を教育に活かす』pp. 155-172.
- 中村純作 (2004) 「コーパス言語学を概観する」『英語青年』149(11), 2-5.
- 中村純作・堀田秀吾編 (2008) 『コーパスと英語教育の接点』松柏社。
- 岡田伸夫・南出康世・梅咲敦子編 (2010) 『英語研究と英語教育—ことばの研究を教育に活かす』大修館書店。
- 齊藤俊雄・中村純作・赤野一郎編 (2005) 『英語コーパス言語学—基礎と実践—』(改訂新版) 研究社。
- 総務省情報通信国際戦略局 (2010) 「世帯における情報通信機器の保有状況」『通信利用動向調査報告書 世帯編』(統計局ホームページ/第五十九回日本統計年鑑 平成22年—第11章 情報通信・科学技術) [http://www.stat.go.jp/data/nenkan/backdata/11.htm]
- 投野由紀夫 (2008) 「教材とコーパス」中村純作・堀田秀吾編『コーパスと英語教育の接点』pp.3-19 松柏社。
- 梅咲敦子 (2004b) 「英語学習のための大規模コーパス利用」(英語コーパス学会第24回大会実践報告ハンドアウト)。
- 梅咲敦子 (2005a) 「コーパスと語彙・文法教育」(JACET 関西支部第15回学習文法研究会 2005.1.29 ハンドアウト)。
- 梅咲敦子 (2005b) 「英語の授業におけるコーパスの利用」『立命館言語文化研究』16(4), 115-145.
- 梅咲敦子 (2006a) 「英語の授業におけるコーパスの利用(2)」『立命館言語文化研究』17(4), 61-96.
- 梅咲敦子 (2007a) 「第VI章 コーパス言語学」八木克正編 (2007) 『新英語学概論』英宝社, 119-126.
- 梅咲敦子 (2007b) 「英語発見学習のためのコーパス」『立命館言語文化研究』18(4), 3-34.
- 梅咲敦子 (2007c) 「コーパスを利用した語法研究実践例—身近な疑問の解決から—」(第3回英語語法文法セミナー 2007.8.6 ハンドアウト)。
- 梅咲敦子 (2007d) 「英語教育とコーパス：問題解決型学習と自律した英語使用のためのコーパス利用」(日本英語コミュニケーション学会第16回大会シンポジウム「英語コーパス活用最前線—現状と今後の展望を考える」2007.11.24 ハンドアウト)。
- 梅咲敦子 (2008a) 「コンピュータ・コーパスを活用した自分で磨く発信型英語」(文部科学省委託事業 社会人学び直しニーズ対応プログラム「英語による奈良観光ガイド人材養成プログラム」特別講演、於帝塚山大学 2008.5.19 ハンドアウト)。
- 梅咲敦子 (2008b) 「大学の英語授業でのコーパス利用：その実践例」中村純作・堀田秀吾編『コーパスと英語教育の接点』pp.22-44. 東京：松柏社。
- 八木克正 (2010) 「フレイジロジーの背景と実践」名古屋大学講演会 2010.2.14 ハンドアウト。
- 八木克正・井上亜依 (2008) 「英語教育のための phraseology (上)(下)」『英語教育』5月、6月号、65-67, 66-69.

Applying Corpus Linguistics to English Education: Towards the goal of using English autonomously with dictionaries and corpora

Atsuko Furuta Umesaki

The author has been employing large-scale corpora in teaching English at university level, advocating the use of corpora and dictionaries in combination. The goal is to enhance learners' ability to find answers to their own queries about English and to induce the 'rules' necessary in speaking or writing it. This is achieved by exposure to examples and various forms of collocation data obtained from the corpora. Its aim is to enable students to communicate with confidence after graduation when they are uncertain about expressions coming to mind and cannot obtain advice from instructors.

In this paper, a brief survey is made of the way in which Corpus Linguistics can serve as an important resource in English education. Its contribution has two main aspects: one is the application of linguistic information derived from corpus analysis; the other is the use of corpora in teaching and learning English. As the theoretical background of the practice, Phraseology is employed. Examples used in the classroom are presented. Corpora being used for the present research are SCN-BNC, BYU-BNC, BYU-COCA and Sketch Engine-ukWaC. The effectiveness of the method is considered on the basis of a questionnaire. Future perspectives concerning the use of corpora in ELT classrooms are presented with the aim of fostering the use of English autonomously with corpora and dictionaries in combination.